

# NSPA JAPAN

発行人・後藤 武  
編集・広報委員会



The Natural Science Publishers' Association of Japan

## 自然科学書協会会報

年頭にあたって

一般社団法人 自然科学書協会理事長 後藤 武

フランクフルトブックフェア報告

出版・印刷人の集い報告

ほか

2013 1/15 NO. 1

<http://www.nspa.or.jp/>

一般社団法人 自然科学書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 1 階 TEL 03-5577-6301

### 年頭にあたって

一般社団法人 自然科学書協会  
理事長 後藤 武



昨年度のノーベル医学・生理学賞は i P S 細胞の開発者である山中伸弥氏（京都大学教授）が、ジョン・ガードン氏（ケンブリッジ大学名誉教授）と共に受賞されました。授賞理由では「細胞の『初期化（リプログラミング）』ができることは、細胞や器官の進化の理解に革命を起こした」と称えています。山中氏は「さらに研究を続け一日も早く医学に応用しなければならぬ」という気持ちでいっぱいだ」と、再生医療をはじめ多くの分野での応用の可能性を拓く意気込みを語っています。

この i P S 細胞の誕生は、不治の病に苦しむ人々に光明をもたらし、創薬部門でも画期的な新薬を効率よく生み出すことを可能にするなど、研究開発への期待がいよいよ大きく膨らみます。

◎

さて、多くの人命や生活基盤が奪われた東日本大震災から、今年の三月で満二年を迎えようとしています。しかし、多くの被災地では津波にさらわれた建物の基礎部分のみを残したままの手付かずの状態で、いまなお全国各地に移住・仮住まいを余儀なくされている被災難民の数は、政府発表でも三十数万人といわれ、これらの人びとの困窮は一層深まる状況が続いています。なかでも深刻なのは、原発事故による災禍で、まだ立ち入りさえ許されない地域も多く、放射能汚染物質の除去の見通しも全く立っておりません。

このたびの震災復興への対処に際しては、被災者の方々の生活再建を促す早急かつ充実した施策がまず求められますが、同時にこの惨劇を繰り返さないためには、継ぎ接ぎの拙速な施策は決して許されることではありません。自らの未来の生活像をいかに描き直すか、またそのことを通していかなる新たな社会構造を築き直すかが根底的に問われていることを受け止めた真摯な対処こそが求められています。

この震災復興は、「自然」への畏敬を前提とした人間の「知」の総合力が求められる大事業であろうと思えます。自然科学の各分野に携わるわれわれ出版人としては、その一環として、学術書、啓蒙書、雑誌などの出版活動を通

して的確な情報発信を続けることによつて、その一端を担う覚悟を新たにすべき時代に当面させられていることを心しなければならぬと考えます。

◎

「公益法人制度改革関連三法」の施行に伴う一般社団法人への移行については、昨年五月二二日付で内閣総理大臣名の認可書が交付され、当協会は第六二期会計年度開始日の平成二四年六月一日付をもつて「一般社団法人」として登記し、移行を果たしました。

われわれ役員一同はこれを機会に心機一転、経済優先による効率主義の荒波にさらされ続けて疲弊してしまった教育・学術・文化の「復興」をスローガンに掲げ、定款に謳う「自然科学に関する出版事業の文化的使命の達成を図る」とともに、「自然科学及びその応用の進歩向上に寄与する」ために、会員の皆様と相携えて山積する諸々の課題に取り組んでまいれる決意を新たにしております。

また、当協会を、会員各社が鋭意出版活動を続けていくための「基盤」と位置付け、活力ある業界形成に向けて邁進してまいりたいと考えています。

年頭にあたり関係各社のますますのご隆盛を願うとともに、各位のさらなるご健勝を祈念申し上げます。

## フランクフルトブックフェア報告

第六回フランクフルトブックフェアは、一〇月二〇日(水)から二四日(日)まで、ニュージーランドをテーマ国とし開催されました。

主催者の発表によりまずと、EU不況の影響が参加国・地域は一〇〇(二〇六)、出展者七三〇〇(七四〇〇)とともに減少し、入場者も二八万一千七五三人(二八万三〇〇〇人)、「一」内は昨年実績と減少しました。

日本からの出展は、単独で二四社、当協会会員社も四号館や六号館に単独ブースを出展されておりました。当協会の書籍(二社四〇点)は、出版文化国際交流会と国際交流基金共催の日本共同ブースに、出版協会、大学出版部協会、日本児童図書出版協会らとともに出展されました。



実際、各ブース間を歩いておりましたも、人が少ないのを感じました。が、相変わらず各ブースでは版權交渉のミーティングが活発に行われており、フランクフルトブックフェアが世界最高のブックフェアであるとの活気を感じました。

当委員会といたしましては引き続き出展を検討したいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



なお展示後の図書は、サンクトペテルブルグのロシア科学アカデミー付属図書館の「三笠文庫」に寄贈されたことを申し添えておきます。

(国際委員会委員長 曾根良介)

## 出版・印刷人の集い報告

二月一九日(月)に「出版・印刷人の集い」(主催「東京都印刷工業組合出版メディア協議会、協賛「一般社団法人出版協会」一般社団法人自然科学書協会)が行われた。二部制に分かれており、第一部は日本出版会館で二六時半から、酒井邦嘉氏(東京大学大学院総合文化研究科教授)を講師に迎え、「脳を創る読書「紙の本」は終わったのか?」と題して、次のような講演内容で行われた。

「脳を創る」ことの意味として、読書を通して、言葉の意味を補う「想像力」が自然に高まり、「考える力」が自然と身につく。さらにそのことは脳が変化し成長する。「紙の本」と「電子書籍」とでは、「紙の本」が持つページ数に対応した厚さや位置情報の手掛かりが記憶を助け、また画面の大きさに縛られない紙の本の利便性がある。また「電子書籍」は情報量・効率・経済性を追求する。一方、個性や手掛かりに乏しい。電子書籍の波は一時的なものでコピーが安易で横行し衰退は不可避である。一方紙の本を全頁コピーするのは手間やコストの面で容易ではない。紙の本の効用の科学的検証は十分に可能である。紙の本は出版社を中心に製作において印刷・紙・製本に携わる職人がおり、流通では取次・書店が存在し、書店から読者へのサービス提供へと発展する。また図書館でも本に触れる機会があり、「紙の本」を支える多様な出版文化が存在する。



酒井邦嘉氏

人間の言語能力を発達させるためには、「聴く・読む」の入力は適度に少なく、想像力を育み、一方「話す・書く」の出力はできるだけ多くし、創造力を養うことが「人間らしい」創造的な言葉の生涯

学習に適しているとのこと。

第二部の懇親会は一八時より日本出版クラブ会館で盛況に行われた。主催者を代表して東京都印刷工業組合出版メディア協議会の山岡景仁会長の挨拶があり、協賛側から出版協会の菊池明郎理事長の挨拶と当協会の後藤武理事長の乾杯の音頭があつた。その後は和やかな交流が図られた。参加者人数は主催者発表で一六三名。(広報委員会)

## 吉野達治氏 お別れ会開かれる



昭和五三年から平成一三年まで当協会専務理事・常務理事・理事を務めるなど、協会活動に大きな足跡を残し、八月四日に死去された株式会社裳華房代表取締役会長吉野達治氏(享年七十一歳)のお別れ会が一〇月二四日に日本出版クラブ会館で開かれた。当協会会員社はもとより、

出版社、販売会社、印刷会社など、交流のあった関係者が約二五〇名参加し、献花と共に会場内に故人の写真映像を見ながら、在りし日の吉野氏の思い出を語り合っていた。

(広報委員会)

### 吉野達治さんを悼む



裳華房会長の吉野達治さんの訃報に接してすでに三か月近く経ったが、いまだに鬼籍に入られたとは思えないでいる。何しろ、あれだけ生まじめに出版団体の会合に顔を出されていた吉野さんが、私どもの眼前から忽然と消え去られたのは、もう二、三年前のことだ。体調不良とのことだったが、いつかは必ず復帰されるに違いない。そう思い続けてきた気持ちは、今日なお少しも変わらないからだ。

出版団体に関わっていると、自分より目上と思いついでいた人が、実は若かったりする。若くして各協会の役員を務められた吉野さんもそんな一人で、「享年七十一歳」だったと聞いて、私のような老兵には、まだ若かったのにと無念の思いが募る。私がこの協会に顔を出し始めた一九九〇年代初頭、吉野さんは専務理事の要職に

あり、群雄割拠(?)の業界を独特の調整能力と気配りでまとめておられた。当時は出版界にとっても「古き良き時代」で、年一回の視察旅行や浅草方面での忘年会などの場で吉野さんが面目躍如とされていたのを思い起こす。吉野さんからは親切心と丁寧な言葉遣いを教えられた。

国際的な文化交流や献本運動に献身的努力を払われたことも特筆に値する。現在体調を崩されている御夫人ともども奉仕の精神が横溢した、得難い人物だった。

今、私の書棚には裳華房創業一〇〇周年を記念して復刻された『英文化版武士道』がある。吉野さんは時折「これからはグローバルの時代だ」と言い放つて私どもの緊張感を誘ったが、今から思うと、新渡戸稲造のこの名著の精神を、私ども凡者に言い伝えたかったのかも知れない。

(元理事長 志村幸雄)

#### 【第六二期理事会・委員会開催一覧】

(二〇二二年一月～二月)

##### ●理事会

- ・ 一月一八日(木) 一〇月定例理事会／一五時～一六時五分 日本出版クラブ会館
- ・ 二月一九日(月) 一月定例理事会／一四時三〇分～一五時四五分 日本出版クラブ会館

・ 二月六日(木) 二月定例理事会／一六時三〇分～一七時一五分 東京會館

##### ●専門委員会

・ 二月二七日(火) 総務委員会／一四時～一五時 日本出版クラブ会館

- ・ 二月五日(水) 販売・出展委員会自然科学書フェア小委員会／一六時～一七時 文化産業信用組合

##### ■その他

- ◆ 二月一九日(月) 出版・印刷人の集い／一六時三〇分より 日本出版会館・日本出版クラブ会館
- ◆ 二月六日(木) 年末会員集会／一八時より 東京會館

##### ■事務局だより

◆ 退会のお知らせ  
株式会社学会出版センターは、同社からの申し出により平成二十四年二月付で退会致しました。株式会社学会出版センターの退会により、現在の会員数は六九社となっております。

##### 〈当会代表者の変更〉

- 株式会社裳華房  
旧代表者 吉野達治  
新代表者 吉野和浩

##### 〈商号の変更〉

- 旧 財団法人東京大学出版会  
新 一般財団法人東京大学出版会

##### 〈当協会会員募集〉

自然科学書業界の健全な発展のために志を二にする会員を募集しております。詳細は、協会事務局 (sec@sp.or.jp、〇三―五五七七―六三〇) までお問い合わせください。

#### ■第六一期／第六二期広報委員 〈担当常務理事〉

- 大畑秀穂(医歯薬出版)
- 牛来真也(コロナ社)
- 〈委員長〉 田中久米四郎(電気書院)
- 〈副委員長〉 吉原 隆(家の光協会)
- 福田 淳(医歯薬出版)
- 竹西素子(オーム社)
- 木村 隆(講談社サイエンティフィック)
- 矢吹俊吉(講談社サイエンティフィック)
- 大井隆之(コロナ社)
- 松田和貴(電気書院)
- 遠矢良太郎(南江堂)
- 増田素美(丸善出版)

#### 編集後記

『雪虫』をご存じですか？

東京ではその姿を見ることが、その名前を耳にすることもありません。北の雪国で生まれ育った私にとって、雪のない冬景色と同じくらい、不自然さを感じたものでした。秋の終わりの夕暮れ時、ふわふわと舞う白い影に、「えっ、もう雪?」と思い目を凝らして見ると、それは大抵「雪虫」でした。小さく弱々しいからだと、白い綿毛をまとい、飛んでいるというより、浮遊している感じ。冬の風物詩として、ロマンチックにも思えたものです。

気になって調べてみると、『雪虫』の正式名称は「トドノネオオワタムシ」といい、アブラムシ科に属する昆虫とのこと。「アブラムシ」だったとは…何だか興ざめです。

(M・M)

## 年末会員集会報告

去る二月六日、一八時から、東京會館において、一、二名のご出席を得て恒例の年末会員集会を開催いたしました。

冒頭、後藤武理事長による開会のご挨拶では、わが国が直面している諸問題に言及するとともに、出版業界並びに当協会の一年度の活動を振り返りつつ、新たな年に向けた抱負を語りました。

ご来賓ご挨拶では、相賀昌宏氏（社団法人日本書籍出版協会理事長）から、電子メディアの持つリファレンス機能は自然科学書籍と相性が良いのではないかとのこと、新たな可能性について考えるヒントをいただきました。



相賀昌宏理事長

続いて川上浩明氏（株式会社トーハン専務取締役）からはe-Bookをはじめとしたトーハンの戦略、販売面や業界の動向などのお話をいただき、安西浩和氏（日本出版販売株式会社専務取締役）からは、今年の自然科学書の販売状況について数値に基づいたお話をいただき、総じて数学系に手堅さがあったとの印象を語られました。



川上浩明専務



安西浩和専務

さて、今回の年末会員集会では功労者表彰式があり、今回は長年当協会にご尽力賜り、当協会の理事長の重責も担われた、本郷允彦相談役が表彰されました。後藤武理事長から感謝状並びに記念品の贈呈があり、本郷允彦相談役からは、当協会の活動が益々活発になるようにとのお言葉と、謝辞をいただきました。



本郷允彦相談役

厳粛な中にも和やかだった功労者表彰

式の後には乾杯に移り、当協会朝倉邦造顧問に乾杯のご発声を賜りました。乾杯のご発声に先立つご挨拶のなかで、朝倉邦造顧問は平成二四年という年を振り返り、長年自然科学書協会の発展並びに業界の発展にご尽力され今年他界された、故佐藤政次氏（オーム社元最高顧問）、故吉野達治氏（豪華房代表取締役会長）に触れ、その功績を称えました。



朝倉邦造顧問



会場風景

ご来賓を交え和やかな歓談、日ごろ多忙を極める参加者の皆様も、今宵は時のたつのを忘れて、しばし、年末のひと時を楽しく過ごすことができましたのではないかと拝察いたします。

宴たけなわの一九時四〇分頃、中締めのご挨拶として当協会森田猛専務理事が登壇し、自然科学書協会が大所帯でありながら、安定した会員数を維持しつつ今日あるのは、会員各社が理念を持って事業に取り組んできた結果であると、熱い言葉で賞賛され、業界の益々の発展、ご参加各位の益々のご隆盛を祈念し、二本締めを以って、賑々しく中締めを執り行いました。



森田猛専務理事

尚、平成二四年度年末会員集会の司会進行は、昨年に引き続き牛来真也広報委員長が司り、沈着冷静な進行が好評だったことを申し添えます。

以上、平成二四年度の自然科学書協会年末会員集会も、ご来賓、ご参加各位のご理解ご協力により、無事終えることができました。ここに報告申し上げますとともに、この紙面を通じて感謝申し上げます。

（総務委員会委員長 飯塚尚彦）